様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１１３０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７７０２００

研究課題名（和文）L2 Motivation and Metacognition

研究課題名（英文）L2 Motivation and Metacognition

研究代表者
リース　エイドリアン（Leis, Adrian）

宮城教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：９０５９００６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目標は、英語学習者の動機づけを高める教授法を見つけることでした。一つ目は、海外研修に参加することで参加者の英語に対する不安が下がると分かりました。しかし、帰国するときに、普段の授業でも海外で学んだことを継続しなければ、モチベーションのレベルが下がることも分かりました。二つ目は、語学学習におけるコンピューターを利用すると学習者の動機づけが高まるかを研究することでした。教育を目的にして、スマートフォンを英語の授業で使うことや反転学習を行うとで学習者の動機づけが高まることが分かりました。これから、さらにコンピューター支援語学学習に関する研究が必要であると思われます。

研究成果の概要（英文）：In the present research project, I focused on various methods of increasing students' motivation to learn English. First, it was discovered that studying abroad is effective to a certain degree, in that even after a ten-day program, students' anxiety levels decreased. However, it was also noticed that upon return to Japan, it is essential that teachers continue the feelings achieved while abroad. If this is not done, the level of students' motivation may go back to where they were before. The second goal was to look the effects of using computer technology to increase students' drive to learn. It was discovered that the use of smartphones for educational purposes and the flipped learning approach were indeed effective in increasing the motivation to learn among students. Further research is required, especially in regards to the use of technology in the classroom and what of teaching styles are effective for what kind of students.

研究分野：L2 Learning Motivation

キーワード：L2 Learning Motivation　CALL

１．研究開始当初の背景

本研究は，英語圏ではない日本における英語教育における動機づけやメタ認知についての実践研究である。

日本人の英語学習者はよく英語を利用することに対する動機づけが低いと言われている（e.g., Anderson, 1986; Donahue, 1998; Harumi, 2011; Wilson & Leis, 2015)。学習者の動機づけが高まると共に英語能力も向上するとの研究結果があり(e.g., Yashima, 2013)、英語力が他のアジア国より低いと言われる日本人の英語学習者の英語学習に対する動機づけが高まると英語力が高まると思われる。したがって、日本人の英語学習者の動機づけを高める指導方法を探る必要がある。

２．研究の目的

本研究の目標は、英語学習者の動機づけを高める教授法を探ることである。

動機づけを高める指導法について、学会発表、学会ジャーナル、教員研修会などを通して多くの英語教員や学者に結果を伝え、日本人の英語学習者の動機づけを高めることである。

３．研究の方法

本研究は３年に渡り主に３つの方法を利用した。

まずは、１つ目は海外修学旅行に参加することで参加者の英語学習動機づけやメタ認知に変化が見られるかを調べることである。被験者は中学生、高校生と大学生で、Dörnyei (e.g., 2009)の L2 Motivational Self System や Yashima (e.g., 2002)の Willingness to Communicate の研究に基づいて研究を行った。被験者が２週間の海外修学旅行（海外研修）に参加する１週間程度前、帰国１週間程度後、そして２ヶ月程度後にアンケート調査を行い、参加する前と帰国後の英語学習に対する動機づけを比較した。

２つ目は授業中にコンピューター支援語学学習を利用することで学生の英語学習動機づけやメタ認知に変化が見られるかを調べることである。被験者は大学生である。授業中にソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）やスマートフォン、タブレットを利用することでアンケートやインタービューを通し学生の英語学習動機づけやメタ認知に変化が見られるかを調べた。

３つ目はコンピューター支援語学学習をさらに探り、反転学習（Flipped learning）中心に研究を進めた。英作文の授業を反転学習（授業の前に学生がビデオを通して教科書の説明を聞き、授業時間内に英作文を編集する）と普段の授業（授業時間内に学生が教科書の説明を聞き、授業後に英作文を編集する）の二つの指導法を利用し、参加者の英作文能力を比較した。参加者の英作文能力は英語のネイティブスピーカーによりルーブリックを利用し計った。

３年間の研究の流れは図１にまとめてある。

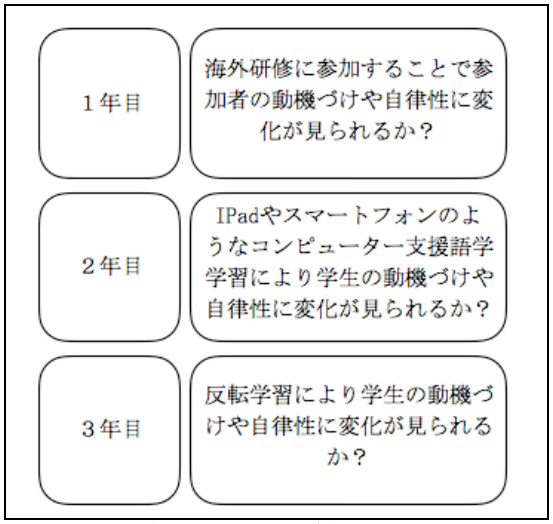

図１．本研究の３年間の進行

４．研究成果

１つ目の研究は海外修学旅行に参加することで参加者の英語学習動機づけやメタ認知に変化が見られるかを調べることである。今までの研究結果（e.g., Freed, 1990; Sasaki, 2011）によると、海外研修や留学に参加することで英語学習に対する動機づけに有意な変化が見られるためには少なくとも３ヶ月が必要である。本研究にも同じような結果が出たが、短期留学（i.e., ２週間程度）でも英語を使うことに対する不安性が有意的に落ちることも明らかになった。

さらに、帰国後の指導法も修学旅行に参加者へ大きな影響を与えることも明らかになった。帰国後に教員がコミュニケーション中心に指導する、そして修学旅行中に参加者が経験したことを取り入れると帰国２ヶ月後に修学旅行前の動機づけと比べて向上する。このように指導しなければ、動機づけが修学旅行前と比べて低くなるとの結果が出た。

すなわち、海外修学旅行に参加すると英語学習に対する動機づけが有意的に向上しないが、不安性が落ちる。ただし、帰国後の指導法により、その参加者の動機づけがさらに向上するか低下するか大きな影響を与える。したがって、英語教員はこの参加者が修学旅行中に経験したことを普段の授業やテストなどで触れるべきである。

２つ目の研究はコンピューター支援語学学習の利用による学生の英語学習動機づけやメタ認知に変化が見られるかを調べることである。

この研究では、まずは SNS の Twitter を

異文化理解の授業で利用すると参加者の動機づけに変化が見られるかを調べた。結果によると、本来、動機づけの高い参加者には効果的で、授業時間以外でも授業で行っていたディスカッションを継続することができるのは好意的である。ただし、本来、動機づけの低い学生には効果的ではなかったと明らかになった。動機づけの低い学生、または自分の英語力に自信のない学生は自分の英語の文法ミスや語彙ミスがインターネット上に残ることに対して心配があり、抵抗があった。したがって、今後、Twitter や Line のような SNS を授業で使用する時に英語に自信のない学生が不安を感じないようにコミュニケーション中心のルーブリックを使う必要はあると思われる。

３つ目の研究はコンピューター支援語学学習をさらに探り、反転学習（Flipped learning）中心に研究である。まずは英作文の授業を通し、反転授業と普段の授業を比較した。反転授業の場合、教科書や普段の授業で説明することをビデオで見ることができるため、字幕で内容を確認することもでき、理解できなかったところを何度も繰り返して再生することが可能なのでより分かりやすくなることが明らかになった。そのため、反転授業に参加した学生の学習する量（Figure 2 参考）、英作文の長さ（Figure 3 参考）と英作文の能力（Figure 4 参考）は普段の授業に参加した学生に上まった。

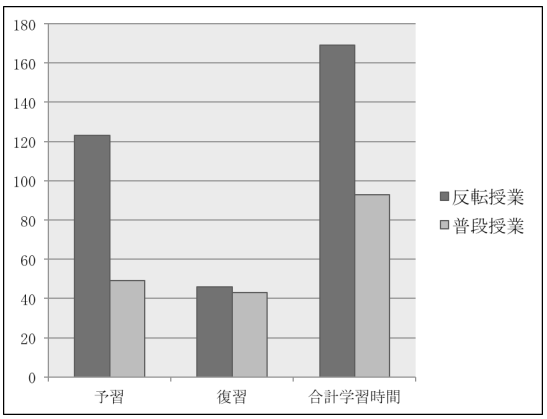

Figure 2. 学習時間の比較

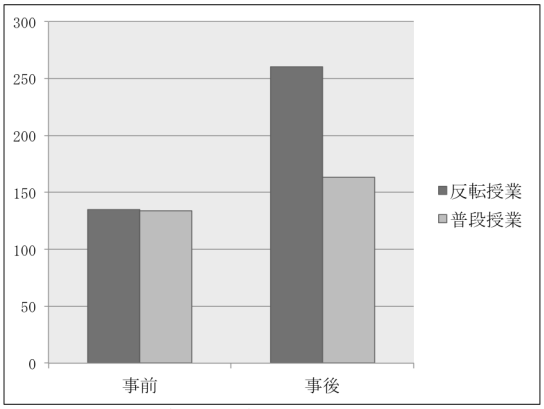

Figure 3. 語数の比較

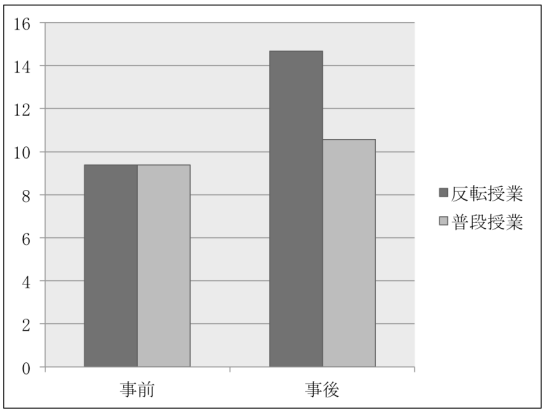

Figure 4. 能力の比較

本研究の３年間の結果と英語教育への示唆をまとめると、

（1）海外研修に参加することは参加者の英語でコミュニケーションをとることに対する不安性を下がることができるが、帰国後の教員の対応は重要である、

（2）SNS を授業で使うことは学習者の動機づけを高めるために効果的であるが、自信が低い学習者は自分がつぶやく英語は間違えているのではないかと不安を感じる。したがって教員が評価をつけるときは文法的な性格さではなく、つぶやく回数中心にすべき、

（3）反転授業は普段の授業より効果的であるがビデオに字幕をつけることが重要である。

＜引用文献＞

① Anderson, J. Taking charge: responsibility for one’s own learning. Unpublished MA Thesis. The School for International Training, Brattleboro, VT.、1986.

② Donahue, R. T. Japanese Culture and Communication. Lanahan, MD: University Press of America、 1998.

③ Dörnyei, Z. The L2 Motivational Self System, in Z. Dörnyei & E. Ushioda、Motivation, language identity and the L2 self、2009、pp. 9-42.

④ Freed, B. Language learning in a study abroad context: The effects of interactive and non-interactive out-of-class contact on grammatical achievements and oral proficiency. In J. Atlatis (Ed.)、Linguistics Language Teaching and Language Acquisition: The Independence of Theory、 Practice and Research、1990、pp. 459-477.

⑤ Harumi, S. Classroom silence: Voices from Japanese EFL learners. ETL Journal, 65, 2011 、 260-269. doi:10.1093/elt/ccq046

⑥ Wilson, M. & Leis, A. A Self-worth perspective on vocabulary acquisition. Paper presented at the Japanese Society of English Language Education National Conference, Kumamoto, Japan、August, 2015.

⑦ Yashima, T. Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context 、 The Modern Language Journal、Vol. 86、No. 1、2002、pp. 54-66.

⑧ Yashima, T. Imagined L2 selves and motivation for intercultural communication、in M. Apple, D., De Silva, & T, Fellner 、 Language Learning Motivation in Japan、2013、pp. 35-53.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　９件）

① Leis, A. Flipped Learning and EFL Proficiency: An Empirical Study 、Journal of the Tohoku English Language Education Society、査読有、Vol.36、2016、pp. 77-90.

② Leis, A. Intonation phrases in the use of closed-captions for deaf and hard-of-hearing Students in EFL classes、Tohoku TEFL,査読有、Vol.6、2016、pp. 23-37.

③ Leis, A. Flipped classrooms and their implications for English education in Japan、Bulletin of Miyagi University of Education、査読無、Vol.50、2016、pp. 231-239.

④ Leis, A. Study abroad and willingness to communicate: A case study at junior high school、The Language Teacher、査読有、Vol.39、No.2、2015、pp. 3-9.

⑤ Leis, A. How teaching styles affect the motivation of students returning from short-term experiences abroad、Miyagi University of Education Research Center for Education in International Understanding、査読無、Vol.9、2014、pp. 30-37.

⑥ Leis, A. The self-confidence and performance of young learners in an EFL environment: A self-worth perspective、JES Journal、査読有、Vol.14、2014、pp. 84-99.

⑦ Leis, A. Effective use of tablet computers in EFL pedagogy、JALT 2013 Conference Proceedings、査読有、Vol.1、2014、pp. 620-627.

⑧ Leis, A. Encouraging Autonomy through the use of a Social Networking System、JALT CALL Journal、査読有、Vol.10、No.1、2014、pp. 69-80.

⑨ Leis, A. The effects of a study abroad experience on the L2 Motivational Self and metacognitive skills: A study of a junior high school trip abroad 、Bulletin of Miyagi University of Education、査読無、Vol.48、2014、pp. 199-209.

〔学会発表〕（計　７件）

① Leis, A. Anxiety and the use of closed captions in listening tests for deaf and hard-of-hearing university students、全国英語教育学会第 42 回研究大会埼玉研究大会、於　獨協大学、埼玉県草加市、2016 年 8 月 20 日～21 日（採択済み）.

② Leis, A. The Effects of Flipped Learning on Proficiency in the Japanese EFL Environment、大学英語教育学会 第 55 回（2016 年度）国際大会、於　北星学園大学、北海道札幌市、2016 年 8 月 31 日～9 月 3 日（採択済み）.

③ Leis, A. Paperless Tests to Cut Marking Time up to 98%、JALT2015: 第 41 回全国語学教育学会年次国際大会、於　静岡県コンベンションアーツセンター、静岡県静岡市、2015 年 11 月 20 日.

④ Leis, A. Increasing Individual Instruction Through Online Testing: A workshop. JALT 山形部会、於　山形大学、山形県山形市、2015 年 9 月 19 日.

⑤ Leis, A. A Comparative Study of Flipped and Traditional Classrooms in an EFL Environment、全国英語教育学会第 42 回研究大会熊本大会、於　熊本学園大学、熊本県熊本市、2015 年 8 月 23 日.

⑥ Leis, A. Flipped Classrooms and their Effects on Student Effort and Proficiency、JALTCALL 2015、於　九州産業大学、福岡県福岡市、2015 年 6 月 7 日.

⑦ Leis, A. The effects of short-term study abroad experiences on willingness to communicate in a L2、17th World Congress of the International Association of Applied Linguistics (AILA)、於　オーストラリア、ブリスベン市、2014 年 8 月 12 日.

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

なし

６．研究組織
(1)研究代表者
リース　エイドリアン（LEIS, Adrian）
宮城教育大学・英語教育講座・准教授
研究者番号：90590068

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：